［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日　平成21年10月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000283
法人名	医療法人緑陽会
事業所名	グループホームこまち
所在地	富岡市相野田469 （電　話）0274-62-5811

評価機関名	特定非営利活動法人　　群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年10月7日

【情報提供票より】（ 平成21年9月17日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年12月 1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	12　人	常勤 8人，非常勤 4人，常勤換算 7人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての　1 階 ～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（月額）	42,000　円		その他の経費（月額）	
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	170　円	昼食	200　円
	夕食	230　円	おやつ	昼食代に含む　円

（4）利用者の概要（　月　日現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性　7 名
要介護1		1　名	要介護2	0　名	
要介護3		5　名	要介護4	3　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	84.89 歳	最低	71 歳	最高　94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	コマチクリニック、公立富岡総合病院、公立七日市病院、小澤歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の田畑が広がる自然豊かな閑静な場所に立地し、ホームは鉄骨の1階立ての建物である。玄関を入ると木の床のホールが続き、居室、トイレのドアも同様に木製で温かみがある。入居者は人格を尊重され、入居者主体の暮らしを支援されて、天気のよい日は散歩したり、買い物に出かけている。また、オムツたたみ、洗濯物たたみ、野菜の下拵え、食事の後片付け等に1人ひとりの力を発揮して頂けるように、全職員が見守りと介護を提供している。お年寄りと共に生きることをモットーに理念の実践に熱意を持ち、取り組みをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 昨年評価では運営推進会議の開催が少なかったので、今年からは2ヶ月毎に開催されている。介護計画の見直しの項目では、介護計画作成日の統一及び介護計画の家族了承印欄を設け、記録用紙の様式を改善する取り組みをしている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 管理者、職員は評価の意義を理解し、会議で話し合い、連絡ノート等を利用して意見を提出し、管理者がまとめている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は2ヶ月毎に開催されて、利用者状況、行事運営、評価結果報告、火災予防訓練、インフルエンザ対策等について話し合い、市担当者からインフルエンザの対策についての情報やマスクの付け方などが手をとり指導されている。会議内容は、家族に報告されている。市の担当者とは密に情報交換が行われ、市で行う会議に出席し、事故などの報告はその都度行い問題解決に努めている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 苦情相談受付窓口は重要書類に明記され、書類の綴りとして玄関に置かれ、利用開始時に説明をしている。意見箱の設置もある。入居者の暮らしぶり及び健康状態は、家族の面会時に報告をしている。その際に、家族に言葉をかけ意見を話してもらえるように働きかけている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 天気の良い日に近隣を散歩したり、近隣の方と挨拶を交わしている。隣接するクリニックに地域の方が受診した際に、ホームを訪問してくれる。また、近隣の小学生、手品やハモニカのボランティアが見えたり、地域の道祖神の祭り出向く等をして地域の方との交流を深めている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成14年にホームを開設、管理者、全職員で理念を検討し独自のものを創り上げて、数ヶ所に掲示している。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を共有し、入居者の1人ひとりの人権を尊重し、理解を心がけている。「歌が上手ね」「新聞を読んでね」と声をかけたり、オムツや洗濯物たたみ等その方ができる事の達成感を支援する取り組みをしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣を散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、地域の方が隣接のクリニック受診の際にホームを来訪したり、手品やピアニカグループのボランティアや小学生の訪問がある。また、学校のマラソン大会で生徒の応援をしたり、地域の道祖神の祭りに出向いている。夏には法人で行う祭りに地域の方を招待したり、防災訓練に地域の方の参加がある等地域の方との交流が行われている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、会議の折に評価の意義を全職員に伝えている。自己評価は会議で話し合い、連絡ノート等を利用し意見を出して全員で行っている。昨年の評価から、今年度は運営推進会議を2ヶ月毎に開催、介護計画の見直しはサービス計画書作成日を統一し、家族の了承印の欄を設け、記録用紙の様式の改善に取り組んでいる。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、入居状況、行事運営、防災訓練やインフルエンザについて、評価結果報告等を議題に挙げて意見交換をしている。市からはインフルエンザ対策についての情報や会議の出席者にマスクのつけ方などの指導をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会の行う担当者の勉強会をホームで行ったり、市のグループホーム担当者会議、地域包括センターの会議等に出席をしている。市の担当者から家族のいない方の入居依頼等があり、相談しながらサービスに取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや健康状態について家族の面会時に伝えたり、行事のスナップ写真をホールに掲示して家族に見て頂いている。体調の急な変化等については、電話で報告をしている。訪問が少ない家族には、請求書と共にお便りと写真を同封している。金銭は預かっていないが、１人の方のみ家族了解のもとで千円単位で金銭を持ち、自分で管理している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口は、重要事項説明書に明記され、書類の綴りとして玄関に掛けられている。意見箱も設置している。家族の面会時には、意見や要望等を聞けるように言葉をかけている。また、苦情についての「受付票」を定期的に家族に配布している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設時より異動は殆どなく、管理者は職員の健康に配慮して、また希望休には勤務調整を図っている。職員が代わる場合は入居者に報告し、新入職員は入居者との信頼関係作り等を管理者や先輩から指導を受けて、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、県主催の実践及び管理者研修に出席している。地域密着型サービス連絡協議会の南部ブロックのインフルエンザについての講演会に出席し、報告書を作成後、資料と共に会議で伝達し、また全職員が閲覧出来るようファイルしている。法人内では、月2回程度、昼食の時間帯に研修報告会をしている。職員は、管理者の指導を受け働きながらトレーニングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会が主催する研修会で、他のグループホームの方と情報交換をしている。ホームでは相互訪問の受け入れをして来たが、今年は他ホームへの訪問を計画し調整中である。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があると、本人や家族にホームを見学して頂き、入居者と一緒にお茶を飲みながら日常生活の雰囲気を知ってもらっている。馴染めるように、家族と相談しながら入居に向けて準備を進めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と家族の会話から自分の親子関係を振り返る機会となったり、物のない時代を生きて来た方から物を大切にすることを学んでいる。また、おやつのお焼きの作り方を教えてもらうなど、学び支え合っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常生活の会話やしぐさから気づいたり、無口な方への言葉かけをしたり、色々な音楽を一緒に聞きながら好みを理解したりしている。困難な場合は、家族から話を聞く等している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者2～3名を介護員が受け持ち、入居者の健康や生活、心理面について情報シートに記載している。また、本人や家族から希望を聞き、職員間で話し合われ、ケアマネージャーが6ヶ月毎に介護計画を作成している。家族には、3ヶ月毎のアセスメント時に報告し、了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は6ヶ月となっていて、3ヶ月毎のアセスメントを行い、変化が生じた場合は随時見直されている。安定している入居者は期間までとなっている。	○	安定している入居者の場合でも、月に1回程度は本人や家族の希望を聞き、介護者の最新の情報や気づきから支援内容のチェックを行って頂きたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が同伴出来ない入居者の他病院受診や自宅への外泊等の送迎を支援している。また、月1回理容、美容師が訪問して好みのカットをしてもらう等柔軟に支援をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、法人内のクリニックやこれまでのかかりつけ医を受診している。クリニックからは2週間毎の処方があり、変化がある場合や認知症の方の介護などを相談している。歯痛や義歯が合わない等があれば、協力歯科医院の受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心身の状態が重度化した場合には、かかりつけの医師と家族で話し合い、協力病院に紹介し入院としている。また、終末期の状態の場合であっても、家族と話し合い家族の希望を聞き方針を決めて、ホームで看取りしたケースがある。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格を尊重し、共に生きるとの考え方からプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしている。記録は入居者の目に触れない場所で行い、記録類は事務室に保管をしている。法人内では個人情報保護の方針に基づき研修会を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	１日の流れとしてのホームの過ごし方はあるが、入居者の意思と尊厳を大切にしている。１人ひとりのペースを大切にして、夕方になると出かけたい様子を察知して一緒に出かける等の支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、食事前のテーブル拭きや野菜の下拵え、後片付けを職員と一緒に行っている。テーブルにランチョンマットの使用により雰囲気が整い、職員と和やかに会話しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2日の入浴日になっているが、気温や気分等で午前か午後の時間帯を決めて入浴を支援している。拒否する入居者には、清拭をしている。希望するなら毎日でも入浴は可能であり、暑い日や散歩後のシャワー浴等もしている。入浴時の楽しい会話や柚子湯、菖蒲湯で楽しめるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	じゃがいもの皮むきや大根おろし等の食事の準備や後片付け、新聞の取り入れ、オムツたたみ、洗濯物たたみ等出来る事をして頂いている。また、ゲームや塗り絵等の作品創りを職員と一緒に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は近隣の道を散歩したり、ホーム前の芝生が広がる庭でティータイムや日光浴、食事会を楽しんでいる。また、食材購入に車で職員と一緒に出かけスーパーマーケットで買い物をしたり、隣接の老人保健施設訪問や桜の花見に出かける等の支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、管理者及び職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間を除いて玄関の鍵をかけないケアを実践している。夕方になると、夕暮れ症候群の方の様子を察知して、一緒に外に出かける等をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、火災避難訓練を行っている。春は昼間、秋は夜間を想定し、地域の方や入居者と一緒に行い、避難方法や経路等の確認をしている。また、隣接の老人保健施設で2回行なう災害訓練に参加し、合わせて4回行なっている。近隣の薬局、クリニック、老人保健施設には災害時の協力依頼をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量はチェックされ、介護記録に記録し、その情報を共有して支援している。献立は、入居者の好みや希望を聞きながら、近隣で頂く野菜等を加えて、管理者が作成している。また、体調に合わせて、粥食や嚥下困難な方にはトロミアップ等を使用している。法人内の栄養士の方にカロリーや栄養バランス等を検閲をしてもらっている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール中央にはテーブルが置かれ、角には畳スペースがありテレビ観賞の場になっている。その脇には車椅子の方でも使い易い洗面台が設置され、食後の口腔ケアが行い易い。ホールのソファーで入居者同士や職員との会話が聞かれ、居心地よい空間になっている。トイレは車椅子で入れる広さがあり、浴室は暖房の設備がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、木製の箪笥及びベッドが設置され、使い慣れたカレンダー、慶祝状が壁に貼られ、時計やラジオ、縫いぐるみ、椅子、洋服掛け等が置かれている。本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		